



## 1月からB型インフルエンザが急増！

年末にいったん落ち着いていたインフルエンザですが、1月第2週から増加に転じ、第4週の感染者数は定点あたり19.2と注意報レベルとなっています。

年明けからは、これまでのA型に代わってB型インフルエンザが急増しているのが特徴です。学童のお子さんを中心にB型が優勢な状況となっています。

A型とB型で出現する症状に大きな違いはありませんが、その傾向には違いがあります。A型では高熱や関節痛、倦怠感などの全身症状が急激に現れやすく、B型では発熱が長引きやすく、腹痛や下痢などの消化器症状を伴うケースが多い傾向があります。最近、昨年末にA型に感染していて、今年になってB型に再度感染するお子さんを外来でよくみかけるようになりました。

「一度かかったから今シーズンは大丈夫」と油断しないようにしてください。

### インフルエンザのサブタイプ

A型はH抗原(18種)とN抗原(11種)という2つの表面蛋白質の組み合わせで分類され、変異しやすいのが特徴です。現在、人の間で流行しているのは、A(N1H1)pdm09とA(H3N2)が主流で、昨年話題となった「サブグレードK」はA(H3N2)の変異株となります。

B型は、H抗原・N抗原によるサブタイプではなく、B/山形系統とB/ビクトリア系統という2種類の系統に分かれます。A型よりも種類が少なく変異もゆっくりなので世界的流行はほとんど起こりません。



### 1月の感染症情報

1月前半は嘔吐を主な症状とする感染性胃腸炎が流行し、1月後半からはインフルエンザ（特にB型）が急増しました。パラインフルエンザウイルス感染症も比較的多く見られました。新型コロナウイルスは定点あたり2前後の発生で感染の拡大はありません。



### 1月の利用状況

1月の利用延べ人数は110人、1日平均利用人数は5.8人でした。年齢別では、2歳児が25人で最も多く、次いで3歳児と5歳児の19人でした。疾患別では、急性上気道炎が41人で最も多く、次いでA型インフルエンザ25人、感染性胃腸炎16人の順でした。

年が明けたと思ったらあっというまに1月が終わりました。今年の1月は寒暖差が大きいように感じます。体調管理にはくれぐれもご注意ください。